

2024年度 入学試験問題

2月3日 第3回

国語(45分)

注意

1. はじめのチャイムがなるまで問題用紙には手をふれないでください。
2. 問題は2から11ページまでです。
3. 解答用紙には氏名でなく、受験番号を書いてください。
4. 机の上にあるQRコードのシール(どれでも良い)を解答用紙右上の「ここにシールをはってください」のわくの中にはってください。
5. 解答はすべて解答用紙に書いてください。
6. おわりのチャイムがなりはじめたら、書くのをやめて、えんぴつをおいてください。
7. 句読点・記号も字数に数えます。
8. 本文は出題の都合上、一部変更しています。

三輪田学園中学校

一 1〜10のカタカナの部分の漢字に直しなさい。
また、11〜15の読み方をひらがなで書きなさい。
つづき字ではなく、一点一画をていねいに書くこと。

1 キゲキの台本を書く。
2 最初と最後の場面がコオウしている。
3 平静をヨソオウ。
4 近所をサンサクする。
5 思いこみをスエてる。
6 各国のシユノウが集まる。
7 宇宙にはたたくさんのギンガがある。
8 ヒタイに汗あせして働く。
9 事故の原因をセイサする。
10 状況のスイイを見守る。
11 絹糸のようなつやがある。
12 納屋に道具をしまう。
13 鋼のように強い心。
14 ブームに便乗する。
15 知識を授ける。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

特定の社会集団に対するイメージには、しばしば1偏見へんけんが伴ともないます。偏見とは、ステレオタイプ（ある特定のものとことに対して一般化ぱんかされた、固定的なイメージ）に好き嫌いすききらの感情が伴ったものです。若者は「騒さわがしい」、高齢者は「わがまま」のようなイメージは、「嫌い」の感情が伴う偏見の典型例です。ニュースやテレビドラマなどでそのような場面が報道されたり描写びやうしゃされたりすると、それが偏見につながることもあります。また、特定の社会集団に所属する

特定の誰かとのコミュニケーションで抱いた印象を、その社会集団に所属する人たち全体に当てはまる特徴として捉え、それが偏見となる場合もあります。多くの場合、偏見は知らないことから生まれます。

偏見と聞くと、「嫌い」の方の感情のみが伴うものとして認識されたり、社会問題として注目されたりしがちですが、〈中略〉「好き」、つまりポジティブな感情を伴う場合も偏見です。女性に対する、「料理上手」、「Iアイ気が利く」といったポジティブな感情を伴うイメージなどがそれに当たります。男性にも料理上手や気が利く人はたくさんいるでしょう。

こう説明すると、ステレオタイプや偏見を持つのは良くない、と考える方もいるかもしれません。確かに、よく知らない相手に対して、特定の社会集団に所属しているというだけで好きとか嫌いの感情を生じさせる偏見はよくありません。しかし、情報処理の観点から言うと、2ニ少なくともステレオタイプは私たちの日常生活においてなくてはならないものとも捉えられるのです。

物事を単純化して認識するという、ステレオタイプの利点について考えてみましょう。〈中略〉私たちは日々多くのことをこなしながら生活しています。また、数々の意思決定も行っています。朝食を何時までに食べなければいけないのか、学校の昼休みには何をするか、課題をどれくらい進めておくか、といったように。このプロセスにおいて、膨大かつ複雑な情報を単純化して認識し、処理できれば、それは私たちの認知資源（頭の中でいろいろ考える時に消費するエネルギーのようなもの）の節約につながります。節約した認知資源は、自分にとって特に重要な意思決定について熟慮じゅくりょするために費やすこともできるでしょう。人は認知能力が高いからこそ、ステレオタイプに基づいた物事の理解や整理ができるとも言えるのです。

ステレオタイプに関しては、情報処理の観点から私たちの日常生活

活になくしてはならない側面もあります。しかし、ステレオタイプに伴って生じる偏見は、差別に発展します。みなさんの多くは、「偏見や差別はよくない」という言葉を聞いたことがあると思います。³並列的に扱われがちなこの2つの言葉は、実はそのような並列の関係ではありません。偏見が感情を伴う個人の内的な認知過程(頭の中で起こること)であるのに対して、差別は特定の社会集団に実質的な不利益や利益をあたえる明確な行動として表に現れるものとして区別できるのです。

人種差別や性差別はその典型でしょう。2018年に問題となった医学部受験における性差別をご存じでしょうか。一部の医学部入試において、女性という理由だけで、一律に点数が引かれていた問題です。この背景には、女性は男性に比べて体力的に劣るから、過酷な医師という仕事には向いていないとか、女性は結婚や出産をしたら、仕事を辞めるから無責任だといったステレオタイプや偏見が存在すると考えられます。それが入試で得点を低くする、という差別につながっていたのです。

本来であれば、結婚や、夫婦の間に子供が生まれた際に、女性医師だけが仕事をやめざるを得ない職場環境や、医師という仕事そのものの過重労働を問題として、それを改善するために動く必要があるでしょう。男性であれば過酷な仕事に耐えられるわけではありません。特定の社会集団(この場合は女性)に対するステレオタイプや偏見は、その集団に属する個人の資質や能力に注意を向かわせ、⁴医療現場の構造的な問題を見逃すことにつながりかねないので

〈中略〉

医学部入試における性差別や医師の過酷な勤務状況などの問題が顕在化した(IIはつきりあらわれた)ことにより、環境改善への取り組みも始まっているようです。たとえば、2021年度の医学部入試では、データが存在する2013年度以降初めて、女性の合

格率が男性を上回りました。また、医師の過重労働を改善すべく、政府による医師の働き方改革も進んでいます。これらの取り組みによって、短期間ですぐに大きな成果が得られるということはないかもしれません。しかし、より長期的にみれば、医療に携わる方々の働きやすさは、医療サービスを受ける人たちを含む、社会全体の利益につながるかと期待できます。

さて、⁵私たちはいろいろな言葉を使って個人や集団に抱く印象を表現できます。ポジティブなものでいうと、優しそう、器用そう、親切そう、ネガティブなものとしては、だらしがなさそう、不真面目そう、無礼そう、など、他にもたくさん挙げることができます。ただし、さまざまな表現がある中で、私たちは「能力の高さ」、「温かさ」という2つの次元を基準に、人や集団に対する印象を形成しやすいことが示されています。

〈中略〉

⁶能力の高さと温かさの判断には、相補性があることもわかっています。相補性とは、一方が多くなると、もう片方が少なくなるような関係(お互いがお互いを補いあうイメージ)のことを言います。ジャッドたち(Judd, et al., 2005)が行ったいくつかの研究では、集団に対する印象形成の文脈から能力の高さと温かさの相補的な役割が検証されています。

彼らは第一の研究で、まずは研究参加者に「緑組」と「青組」の集団の特徴について書かれた情報を読んでもらいました。一方の集団の方が能力は高いけれど、どちらの集団も同程度に「温かい」ことを示す内容でした。つまり呈示された情報に基づく、緑組と青組には、能力の高さには違いがあるものの、温かさには違いはない、ということになります。そのような情報を呈示した上で、2つの集団の「能力の高さ」と「温かさ」について、その程度を回答するように求めました。すると、能力の高さに関しては、呈示した情報と

II 一貫して、「能力が高い」と説明された集団の方が、もう一方の集団よりも能力が高いと評価されました。

ここまではある意味当たり前の結果で、面白いのはここからです。「温かさ」に関しては、2つの集団で情報に差をつけていません。したがって、情報通りに評価されれば、2つの集団でその程度に違いは見られないはずです。しかし結果は異なるものでした。「能力が高い」と描写した集団ではない、もう一方の集団の方が、より「温かい」と評価されたのです。

続く第二の研究では、「能力の高さ」と「温かさ」を入れ替えてみました。つまり、「温かさ」に関しては、一方の集団がより温かいけれど、「能力の高さ」はどちらの集団も同程度になるような情報を示しました。その後、1つ目の研究と同様に、2つの集団の能力の高さと温かさの程度をそれぞれ評価してもらいました。すると今度は、温かさの評価に関しては、呈示した情報と一貫して、一方の集団の方がもう一方の集団よりも「温かい」と評価されました。しかし、能力の高さに関しては、温かさの得点が低い集団の方が、より「能力が高い」と評価されました。

この2つの研究から、能力が高いと冷たい、温かいと能力が低いと評価されるという、2つの次元の相補的な関係性が見いだされたのです。ちなみに、温かく能力が高い人と、冷たく能力が高い人では、後者、つまり冷たく能力が高い人の方が、より「能力が高い」と評価されることも別の研究で示されています。

能力の高さと温かさの二次元の組み合わせに基づいて、さまざまな社会集団がカテゴリー（II種類）化され、ステレオタイプのな理解がなされることもわかっています。そして、そのような理解がなされる社会集団に対して人が抱きやすい感情、つまり偏見についても整理されています。（中略）

まず、能力が高く温かい集団とは、自分にとっての仲間分類さ

れる人々です。同じ部活のメンバーや、同盟国の人々などがそれに当たります。このような社会集団に対しては、**1**や誇らしさといった感情が伴うため、差別につながるような偏見は生じにくいと考えていいでしょう。一方、能力が低く冷たい集団としては、薬物中毒者や犯罪者が該当します。このカテゴリーに分類される社会集団には**2**や敵意の感情が抱かれやすく、それは侮蔑的な偏見につながります。現代において、能力が低く冷たいと認識されるような社会集団を形成する人々は相対的に少なく、日常で接触する機会

は限られています。能力の高さと温かさの組み合わせにおいて、どちらか一方が高く、もう一方が低くなるような社会集団は両面価値的な人たちであると言えます。能力が高く冷たい集団には、アジア人、ユダヤ人、お金持ち、フェミニストといった社会集団が分類されます。これらの社会集団には、**3**感情が生じやすいことがわかっています。また、能力が低く温かい集団としては高齢者や障がい者、主婦が含まれ、同情や**4**といった感情が生じます。

両面価値的な特徴を持つ社会集団に属する人々とは、自分が仲間に対してするような直接的で親密なコミュニケーションを行う機会には少ないかもしれません。しかし、非対面でのコミュニケーションや、テレビのニュースやさまざまなメディアコンテンツを通じた接触の機会があります。

事件や事故のニュースでは、被害者や加害者が属する社会集団の種類によって印象が変わることもあります。例を挙げると、傷害事件や交通事故の加害者が裕福で社会的地位の高い人だった場合、そのような人に対して抱かれがちな妬み感情が、より加害者の非人間化を強めるかもしれません。また、被害者が高齢者や女性だった場合は、より一層、同情や共感の感情が生じるかもしれません。しらすしらすのうちには、私たちは属性情報のステレオタイプや偏見に基づいた印象や憶測をしてしまっているかもしれないという点には、

自覚的でありたいです。

「能力が低く、温かい」人たちとして分類される社会集団には、嫌悪や妬みのような負の感情ではなく、共感や同情といった肯定的な感情が生じると説明しました。ゆえに、7ステレオタイプ内容モデルで定義される温情主義的な偏見に基づく差別に対して、問題に思わない人もいるかもしれませんが。偏見に基づく差別をしていることに気づかない場合すらあるでしょう。

温情主義は、パターナリズム（父権主義・家父長制）という言葉に置きかえ可能です。本人の意志や希望を無視して、その人よりも上の立場にいる人たちが、良かれと思ってあれこれと勝手にその人の行動や将来を決めてしまうことを言います。ステレオタイプ内容モデルに基づいて捉えると、「温かい人たちではあるけれど、能力は低いから、(相対的に能力が高い)自分たちが先回りをして助けてあげなければならぬ」という考えになります。

しかし、そのように考える時の能力の低さとは、一体どのような要素を指すのでしょうか。また、本人の意志をそっちのけにして、なんでも先に決めてしまうことは、短期的にも長期的にもうまく機能するものなのでしょうか。もしみなさんが中学生や高校生だったら、先生や保護者に勝手にいろいろ決められたり、自分のことをすべてわかっているかのような言動をされたりすることに對して嫌な気持ちになった経験があるかもしれません。中学生や高校生でなくとも、親や職場の上司に似たようなことをされた経験が記憶に残っている方もいるでしょう。さまざまな理由から、保護やサポートが必要だとしても、本人の意志を無視して構わないことにはなりません。

温情主義的ステレオタイプや偏見が反映されていると考えられる例を見てみましょう。図をご覧ください。これは、8シユリツと

いうアメリカのビール会社が1952年にだした広告です。女性(お



ビールの広告

失敗をBさんが慰めている)においては問題ありません。【B】、広告は一般的に多くの人の共感や興味を得ることを念頭に設計されるものであり、ここで描写している2人は、AさんとBさんという単純な2者関係ではなく、女性と男性という2つの社会集団の関係性が反映されているとも捉えられます。そうすると少し違った見方ができます。【C】、若い女性は料理に失敗する能力が低い、というステレオタイプの描写が含まれていると考えられるのです。加えて、結婚したら料理は女性が作るのが当たり前、という伝統的役割に基づくステレオタイプ(規範的ステレオタイプやジェンダーステレオタイプと言います)も含まれているかもしれません。【D】、料理の経験が浅ければ、男女問わず失敗する機会は多くなるでしょう。

〈中略〉

広告は、短い時間でそれを見る人の注意を引きつける必要があるため、物事を単純化して理解するステレオタイプとの相性も良いとも言えます。しかし、より大きな視点で見ると、ステレオタイプに頼った描写は、⁹ 社会全体に不利益をもたらす ^{III} 諸刃の剣かもしれないのです。

なお、性別による役割の固定化は、多くの場合、女性が不利な立場の存在として記述されます。しかし同時に、男性の選択の幅も狭めているという点も忘れてはいけません。男性にしばしば押し付けられるステレオタイプは、「泣き言を言わない」とか「結婚したら妻と子どもを養えるだけの収入を得なければならぬ」とか、「大学進学の際は、いわゆる理系の学部を選ぶべきだ」といったものでしょうか。このようなジェンダーステレオタイプ（＝社会的性差に基づくステレオタイプ）は、なにか辛い出来事に直面した時、周囲に相談すれば解決できたかもしれない可能性を男性から奪ってしまうかもしれません。

父親として子育てに積極的に参加したくとも、周囲にジェンダーステレオタイプを強く持っている人が多いと、それが叶わないかもしれせん。私は現在子育て中ですが、職場や公共の場での女性の育児支援は充実してきてありますが、反面、男性は積極的に育児に参加しようとしていない人ほど職場での評価の低下や公共場面での育児サポートの欠如で苦しんでいるようにも見えます。たとえば男性トイレに赤ちゃんのオムツを交換するスペースがないと、父と子だけでは出かけにくいでしょう。環境面でも、男性の育児参加をサポートする必要があります。

どうすれば偏見や差別を減らせるでしょうか。偏見や差別の源泉となるステレオタイプを通じた情報処理は、私たちが生活する上で必要不可欠だという話をしました。また、私たちは世界のあらゆる社会集団と直接コミュニケーションをとることは不可能ですから、

偏見を完全になくすというのも難しいでしょう。したがって、実質的に不利益を被る人だけ少なくするという視点に立つとしたら、まずは私たちの心の中にあるステレオタイプや偏見を、¹⁰ 差別という形で表に出さないというのがひとつの方向性であろうと考えられます。

特に「ことば」に関しては、そのほとんどが意識的、意図的に発信されるものです。ですから、差別的な発言をしないように、少なくとも気をつけようとすることはできるはずですが、それは、どうしてもなかなか自分一人では難しい、と感じる人もいるかもしれません。そこで、差別は良くないという社会規範を醸成する（＝つくりだす）コミュニケーションレベルでの取り組みや、差別の抑制を目指すことで、発言をコントロールできるようにする人たちが増える可能性は高まるでしょう。

同時に、特定の社会集団に対するステレオタイプや偏見を心の中で極力芽生えさせない、そしてそれを大きく成長させないことも重要です。1950年代から継続して進められている偏見の低減を目指した研究では、さまざまな社会集団の人たちとさまざまな形で触れ合うことに一定の効果を見出しています。（中略）単に触れ合うだけではなく、そこに共通の上位目標を設定できればなお良いです。直接対面でやり取りする以外にも、間接的に話を聞いたり、メディアを使った情報収集も「触れ合い」にあたります。ですから、広告などの影響力のある媒体（＝情報を伝えるなかたちとなるもの）が逆効果の情報を発信しないことには意味があるのです。

近年では、自分たちがよく知らない「あの人たち」、つまり外集団が、みな同じような人たちで構成されているわけではなく、多くの異なる特徴を持つ人たちなのだとして理解する方法で偏見を低減させるアプローチも注目されています。また、偏見を抑制する目的で行われる介入やアプローチは、小学生から大学生と、教育を受けている真

つ只中ただなかの人たちに対して、より効果を發揮するようです。

11 私と息子わたしとこの経験けんけんを少しお話しします。新型コロナウイルスによる行動制限がかかるより以前に、アメリカのポートルランドで行われた学会に当時小学校2年生だった息子を連れて参加しました。私にとっては久しぶりのアメリカ、息子にとっては初めてです。ホテル近くのスーパーマーケットまでの道すがら、ホームレスとおぼしき人が、1人地面すわに座すわって何かぶつぶつと言っているのが見えました。2月のまだとても寒い時期です。通り過ぎる際に、IV案じむの定じょうといっでは悲しいですが、人種差別的な言葉を浴びせられました。これまでの経験から、何か言われてもとにかく目をあわせない、無視する、という方法を取ることを決めており、幸いそれ以上何か危害を加えられることはありませんでした。

しかし息子は「あの人何？」と、何が起こったのか、よくわかっていない様子でした。そこで、アメリカにおけるホームレスや人種差別の問題について少し話をしました。息子は「でも、いい人たちもいっぱいいたね」と返してきました。たしかに、機内でトイレを譲ゆずってくれた人、スーパーマーケットでハイタッチしてくれた店員さん、テイクアウトのハンバーガーができるまでにこれどうぞ、とポテトがたくさん入ったカップを渡わたしてくれた店員さんと、優しくしてもらった経験をこの一件の前まへにたくさんしていました。息子にはそちらの方が強く印象に残のこっていたようです。

さて、このエピソードに出てきた「アメリカ人」について、¹²私わたしはあえて、人種や性別、年齢といった属性情報を示しませんでした。でもおそらくみなさんは、これまでの経験や知識などから属性情報を頭で補おぎなってその場面をイメージしたのではないのでしょうか。それがまさに、ステレオタイプや偏見です。1人だけ実際の属性情報を追加しますと、スーパーマーケットで息子とハイタッチをしてくれた店員さんは、白人の高齢男性でした。みなさんの頭の中のイメージと一致いっちしていましたか？

繰り返くしになります。13 偏見や差別の問題は大変複雑で、何か1つの解決方法があるわけではありません。良かれと思つたこととですら、効果が得られない場合もあるでしょう。また、偏見を抑制するために開発されたアプローチが、長期にわたつて効果を發揮するのかどうかという点については、まだ十分なデータが揃そろっていない段階です。

しかし、同じカテゴリーに属する人（息子の経験の場合、アメリカ人）だからといって、全員が同じように振ふるる舞まうわけではないということを実際に経験したり、学習したりすることは、偏見の低減に少なからず役立つ可能性はありそうだと、私自身は感じました。自分とは異なる社会集団の存在を早い時期から知り、また、そのような社会集団にも多様な人たちが存在するのだと理解する努力をこつこつと続けていくことが何よりも大切なのではないかと思ひます。

（村山綾『心のクセ』に気づくには 社会心理学から考える』筑摩書房より）

問1 —— 1 「偏見」とありますが、次の例のうち「偏見」とは言いえないものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 勉強が得意だからといって運動が苦手とは限らない。
- イ 小さな男の子はみんな電車が大好きだ。
- ウ スポーツ選手は体が丈夫だから、病気にかからない。
- エ 都会で生まれ育つた子どもは虫が嫌いだ。
- オ 料理研究家は、男女に関係なく料理についてくわしい。
- カ 背が高い人はバスケットボールが得意だ。

問2 — I、IVの意味として最も適当なものをそれぞれ後のア、エから選び、記号で答えなさい。

I 「気が利く」

- ア 細かいところにもまで注意が及ぶ
- イ 好きなことをとことん追求する
- ウ 自分のことより他人を気にかける
- エ 一つ一つの作業をていねいに行う

II 「一貫して」

- ア 互いに強く影響しあいながら
- イ 明らかな関連性を示して
- ウ 最初から最後までずっと変わらず
- エ 完全に一致した内容であって

III 「諸刃の剣」

- ア 一つだけでなく、複数の害をもたらす危険があること
- イ 相手だけでなく、自分にも害をもたらす危険があること
- ウ かつては役に立ったが、今は害をもたらす危険があること
- エ 一方では役に立つが、他方では害をもたらす危険もあること

IV 「案の定」

- ア 本当のこと
- イ 予想どおり
- ウ 意外なこと
- エ ふだんどおり

問3

— 2 「少なくともステレオタイプは私たちの日常生活においてなくてはならないものとも捉えられるのです」とありますが、

① その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人は特定の社会集団に所属しているので、どういう風にならば好まれるのかステレオタイプで判断できるから。

イ 人の認知能力は少しずつ衰えていくので、ステレオタイプによる効率化が物事を考える際に必要だから。

ウ たくさん情報をもとに単純化して処理することで、効率よく認知資源を用いて物事を考えられるようになるから。

エ 物事を単純化して判断すると、「嫌い」の感情よりも「好き」の感情の方が優先的に認知されるから。

② 「私たちの日常生活」における「ステレオタイプ」の使用例

として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

休日に遊ぶ内容を決めるのは時間がかかるが、決断力がある友だちがいれば、「友だちに決めてもらう」という選択肢を持つ。

朝食を毎回考えるのは大変だが、「朝はパンとヨーグルトを食べるものだ」というイメージがある人は、考える時間を短縮できる。

ウ 宿題を期日内に終わらせるのは難しいが、ふだんから予習と復習を行っていると、人よりスムーズに問題が解けるため効

率が良い。

エ 夜眠れない日があったが、寝る直前にテレビを見ていたり、全く運動をしていなかったりしたことが原因だったと分かった。

問4

——3 「並列的に扱われがちなこの2つの言葉は、実はそのような並列の関係ではありません」とありますが、では「偏見」と「差別」にはどのような違いがあると筆者は考えていますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「偏見」は頭の中だけの考えだが、「差別」は実際に起こす行動だという違い。

イ 「偏見」は許される余地があるものだが、「差別」は決して許されないという違い。

ウ 「偏見」はポジティブにとらえられる部分もあるが、「差別」はネガティブにしかとらえられないという違い。

エ 「偏見」はあいまいなところもあるが、「差別」は明確なものだという違い。

問5

——4 「医療現場の構造的な問題」とありますが、具体的にはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 女性は男性より厳しい入試を経て医師になったのに、個人的な理由で辞めてしまう人が多いということ。

イ 男性であっても耐えられない労働環境では、体力のない女性ではなおさら仕事を継続することが困難だということ。

ウ 女性は結婚や出産によって仕事を辞めなければならぬ可能性があるので、責任のある仕事を任されてこなかったということ。

エ 子育てをしながら勤めるのが難しい状況にあるほど、医師という仕事自体が男女問わず過重労働を強いられるものだということ。

② ①のような「問題」を解決することで、どのような利点があると考えられますか。本文から二十五字以上三十文字以内でぬき出し、はじめとおわりの五字で答えなさい。

問6

——5 「私たちはいろいろな言葉を使って個人や集団に抱く印象を表現できます」とありますが、次に挙げる言葉を「ポジティブ」な印象と「ネガティブ」な印象に分類しなさい。
※「ポジティブ」はア、「ネガティブ」はイで答えること。

- ① りりしい ② 浅ましい ③ 凶々しい ④ 頼もしい
⑤ おくゆかしい

問7

——6 「能力の高さと温かさの判断には、相補性があることもわかっていきます」とありますが、どういうことですか。次の説明の() 1～4に当てはまる言葉を本文からぬき出して答えなさい。1・2・4は三字、3は二字で答えること。

二つの研究から、個人の能力の高さと心の温かさに関連性があることが分かった。心の温かさを(1)に設定した二つの集団は、能力が高い方が心が(2)と評価され、逆に能力の高さを(1)に設定した場合は、心が温かい集団の方が能力が(3)と評価されたのである。これは、能力と温かさには互いに補いあうという相補的な(4)があることを示している。

問8 1〜4に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適当なもの

ものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 1 賞賛 2 共感 3 妬み^{ねた} 4 嫌悪
- イ 1 共感 2 妬み 3 嫌悪 4 賞賛
- ウ 1 妬み 2 嫌悪 3 賞賛 4 共感
- エ 1 賞賛 2 嫌悪 3 妬み 4 共感

問9 — 7 「ステレオタイプ内容モデルで定義される温情主義的な偏見に基づく差別」とありますが、「温情主義」はどのよう

な点が問題なのですか。四十字以上四十五字以内で答えなさい。

問10 — 8 「シュリッツというアメリカのビール会社が1952

年にだした広告」のどのような点が問題なのですか。その説明として適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。
ア 女性は料理を失敗するから男性がするべきだという誤解を与える点。

- イ 経験が浅い人は、必ず料理を失敗するという誤解を与える点。
- ウ 若い女性は料理が下手で能力が低いという誤解を与える点。
- エ 結婚したら料理は女性がするべきだという誤解を与える点。
- オ 失敗した人に対しては、注意せずに慰めればよいという誤解を与える点。

問11 【 】 A〜Dに次のア〜エを当てはめ、記号で答えなさい。

(同じ記号は一度しか使えません。)

- ア つまり
- イ 確かに
- ウ しかし
- エ おそらく

問12 — 9 「社会全体に不利益をもたらす」とありますが、「不利益」の例として適当でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 男は泣き言を言わず黙^{だま}って耐えるものだという言葉に縛^{しば}られ、つらいことがあっても平気なふりをして仕事を続ける。
- イ 結婚後に働いて家族を養うのは男性だという決めつけに反発し、専業主夫になる男性が増加している。
- ウ 進路を選ぶときに、男なら理系を選ぶべきだと親に言われて、興味のない理工学部に進学させられた。
- エ 男性が積極的に育児に参加しようとしたが、男性トイレにおむつ交換スペースがないため、外出をあきらめた。

問13 — 10 「差別という形で表に出さないというのがひとつの方向性であろう」とありますが、そのためにはどのようなことが有効なのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 差別の抑制を目指した社会制度を制定するために、人々の発言をコントロールすること。
- イ 差別を防止する社会の制度や規範を設けて、差別的な発言を許さない状況を作ること。
- ウ 差別の源泉となるステレオタイプを通した情報処理を行わず、物事を判断すること。
- エ 社会に対する影響力のあるメディアが、差別意識を批判する新たな広告を世に出すこと。

問14

——11 「私と息子の経験」の内容として正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 筆者の息子は、自分が差別的な態度を取られたことに気づかなかつたが、優しくされたことはよく覚えていた。

イ 筆者は息子が傷つくことのないように、彼にぶつけられた差別的な言葉の意味をあえて伝えなかつた。

ウ 筆者の息子は、自分が受けた差別的な態度より親切な態度の方がアメリカ人らしいものだと感じていた。

エ 筆者は、自分が受けてきた差別を息子に話すことで、アメリカで生きる大変さを伝えようとした。

問15

——12 「私はあえて、人種や性別、年齢といった属性情報を示しませんでした」とありますが、その目的として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア アメリカ滞在中に出会った人たちのことをクイズ形式で紹介すること、それぞれの答えに関心を持たせて、今後の展開に読者の興味を引きつけるため。

イ 人種や性別、年齢を明確に説明してしまうと、読者に特定の集団に対する差別意識を抱かせてしまう可能性があるため、それを避けようとしたため。

ウ アメリカ滞在中に出会った人物を読者に想像させることで、誰もがステレオタイプや偏見をもとに思考することがあると理解させるため。

エ 特定の情報を与えてステレオタイプや偏見を持たせることなく、読者に自由な思考をうながし、自分の文章を想像力豊かに楽しんでもらうため。

問16

——13 「偏見や差別の問題は大変複雑で、何か1つの解決方法があるわけではありません」とありますが、筆者はこのような問題を解決するには、どのようなことが大切だと考えていますか。五十字以上五十五字以内で答えなさい。